

事前準備

- ① ネットの高さ測定(ネット中央 1.524m、ポスト 1.550m)。ネットとポストの間に隙間があったらビニール紐で縛る。
- ② 線審席(シングルス用、ダブルス用)、ベンチ、コーチ席、得点表示板の位置確認。
モップ、インターバルボードの確認。ポストの115cmラインを確認する。
- ③ コートのモップ掛け【線審】
- ④ 本部席横の主審・線審控席で待機してください。

選手集合および入場

- ① 選手集合のアナウンスがあったら本部席で試合セット(審判カゴ)を受け取り、線審・得点係と一緒に選手集合所(2階サブアリーナ)に行く。
(試合セット→審判用紙、筆記用具、シャトル、ストップウォッチ、黄・赤カード、得点表示板掲示用シート)
- ② 選手集合所でオーダー控えを見ながら選手を確認する。選手が揃っているか招集係に報告する。
- ③ 招集係の指示で審判用紙にコート番号を記入し、「試合番号○番、入場します。」と言って、起立させる。
【線審A・若番チーム選手・コーチ・線審B・後番チーム選手・コーチ】の順に主審が先導して入場する。
・コーチの入場は任意なので、コーチ不在でもそのまま入場する。
・線審ABは、【チーム名シート】を胸前に掲げて入場する。
- ④ 審判台の反対側から入場し、主審の左手側コートに若番チーム、右手側コートに後番チーム(審判用紙の選手名と同じ向き)のサイドとし、ネットを挟んでショートサービスライン上に整列する。
・線審Bは、後番チームを先導して右手側コートに入場する。線審ABは、主審の横に立つ。
- ⑤ ネットを挟んで挨拶「これより団体1回戦、○△対●▲の試合を始めます。礼。」(握手はしない)
監督に相手チームのオーダーを渡す。
チーム円陣等の後、ダブルスの選手を若番ベンチ側のコートに集める。
選手の氏名、服装、ゼッケン(県名、氏名の文字の高さ6~10cm)を確認する。
コーチの服装(IDカード、長ズボン着用等)を確認。もし服装違反やトラブルがあった場合は、レフェリーを呼ぶ。
ゼッケンの交換が必要なときは、本部席にも予備ゼッケンを用意している。

マッチ(試合)前

- ① コイントスを行う。若番選手にコインを見せながら、「黄色でいいですね」と確認してトスを行う。
トスに勝った方が、A サーブ権を決める B エンドを決める を選択
勝った方が「A」を選択→サーブをするかレシーブをするかを選ぶ。負けた方はエンドを決める。
勝った方が「B」を選択→エンドを決める。負けた方はサーブをするかレシーブをするかを選ぶ。
- ② エンドを確認し、審判用紙の名前の横にRとLを記入する。
ファーストサーバーとファーストレシーバーの名前を聞き、審判用紙にSとRを記入する。
- ③ 公式練習2分間(実質1分30秒)
シングルスは対戦相手とダブルスはパートナーと行う。(シャトルは各自で)
1分30秒で練習を終了し(レディートゥプレイ)、速やかに試合開始する。
- ④ 選手のバッグは主審横、ショートサービスライン付近に置かせる。
各ゲーム開始前とインターバル終了時に選手のシャツインを確認する。

マッチ(試合)

- ① 21点3ゲームマッチ(延長ゲームなし)
- ② インターバル 11点→60秒(ファイナルゲームはチェンジエンスを行う)、ゲーム間→120秒
残り20秒で「○コート20秒、○コート20秒」とコールし、コーチをコーチ席に戻す。
- ③ ゲーム間(120秒)にインターバルボードをネット中央下に置く。残り20秒で元に戻す。【線審】
もし時間前に両選手がコートに入ったら主審の指示でインターバルボードに戻す。
コートに汗が落ちていたらモップ掛けをする。【線審】
- ④ 審判員の判定に対して質問できるのは当該選手と監督のみである。(大会運営規程第36条)
- ⑤ シャトルが残り1個になったらシャトルケースを挙げて本部席に合図する。
- ⑥ レフェリーを呼ぶ時は、右手を頭上に挙げて本部席に合図する。(気付かないようだったら線審を走らせて連絡する)

マッチ(試合)終了

- ① マッチ終了後の握手は無し。勝った選手に勝者サインをさせる。
審判用紙に終了時刻、シャトル数等を記入し終了のコールをして審判台から降りる。
第1シングルス選手を若番ベンチ側のコートに集め、トスを行う。
・全ての試合が終わったら、ネットを挟んで選手・コーチを荷物を持たせてショートサービスライン上に整列させ「3対0で●▲の勝ちです。礼。」と挨拶する。握手はしない。
- ② 退場は、【勝者チーム・敗者チーム】の順に主審が先導して、フロア出口で解散する。「お疲れ様でした。」
主審は急いで本部席に戻る。
- ③ 線審は、そのままコートに残り、ベンチ、コーチ席の整頓、モップ掛けを行い控え席に戻る。
- ④ 審判用紙の開始・終了時刻、シャトル数等記入漏れがあれば本部席前のテーブルで記入する。
- ⑤ 審判カゴを進行係に渡し、審判用紙だけを持ってレフェリーにチェックを受ける。
- ⑥ 次の審判予定を確認する。(流し込み方式)

主審の心得

- ① 公平でスムーズな試合進行ができるようにマッチコントロールを行う。
・遅延行為がないか。シャトルの交換は公正か。インプレー中のコーチの声掛けはないか等。
- ② SJ、線審、得点係と常にアイコンタクトを行い、信頼関係を築く。
- ③ 判定は迅速かつ厳正に行うが、間違ったときはそれを認め、謝り訂正をする。
- ④ 正しい審判用語を使用し、全てのコール及びアナウンスは、プレーヤーにも観客にもはっきりと聞こえるように大きな声で明確に行う。
- ⑤ 「競技規則」に精通し、「競技審判上の注意」も事前に確認しておくこと。

【団体戦ダブルスの試合開始のコール】

レディースアンドジェントルマン オンマイライト 糸満ジュニアA リプレゼンティッド
バイ ○○さん アンド △△さん アンド オンマイレフト 越来ドリームズ
リプレゼンティッド バイ ●●さん アンド ▲▲さん
糸満ジュニアA トゥサーブ ○○さん トゥ ▲▲さん ラブオール プレー

【団体戦シングルス試合開始のコール】

レディースアンドジェントルマン オンマイライト 糸満ジュニアA リプレゼンティッド
バイ ○○さん アンド オンマイレフト 越来ドリームズ
リプレゼンティッド バイ ●●さん
糸満ジュニアA トゥサーブ ラブオール プレー